提出された意見	意見に対する市の考え
<p>【大型クルーズ船の誘致について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型船の中を見学できるのですか ・大型船の中で甚句の歌を披露したり、踊りを見せたりイベントができるのですか ・お客様をどこに御案内するのですか ・各自で町の散策を楽しむのですか。 <p>たとえ、林様は一万石でも大名です。現代でも中学生が修学旅行に行った折り、道を尋ねた高齢者からお小遣いをいただいたという話を聞きました。林様が脱藩して会津に行き、何をしてそこまで地域の人がしてくれたのかを思う時、林様の存在が木更津にとっていかに大きいことかを知りました。林様の家を復刻して再現したら外国の人にも木更津の歴史の一部を知ってもらえるのではないですか？</p>	<p>船内の見学、甚句や踊りの披露についてはクルーズ会社と協議が必要です。</p> <p>また、案内先については、旅行会社がツアーを組み行き先を決定しておりますが、市内を周遊観光してもらえよう要望しております。</p> <p>なお、各自で散策をお楽しみいただく方もいらっしゃいます。</p> <p>いただきましたご意見は、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
<p>徳川からいただいた木更津船で木更津の繁栄があるのですから、きさらづ船を再現して内覧をさせたら、木更津の人々の働きと共に価値を知らせられると思います。木更津船を港まつりで海ほたる近くまで乗せたら、大反響を呼ぶでしょう。</p>	<p>今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
<p>七月の八幡様の祭りでは、宮入り・宮出の行列を昔風に演じたらこれも絵になり木更津の歴史も忍ばれると思います。衣装は写楽館でそろえてあるそうです。若い芸者がいないことが問題だそうですが足りない分は募集をかけたなら（18歳以上）よいと思います。</p> <p>関東一重い神輿のポスターを関東一円の駅に張るのもよい宣伝になると思います。外からの観光客の集客になります。</p> <p>ただ、木更津に来てお土産として買って行ってもらう物が無いように思います。</p>	<p>今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
<p>食堂関係が木更津のあさりとか穴子とかの天ぷら等が高いと言われてます。だから、バスは1000円で停めてもらって市内観光をして、食べるのは金谷の方へ行ってしまうようです。</p>	<p>バスツアーを含めて市内の飲食店の利用が促進されるよう、PRに取り組んでまいります。</p>

提出された意見	意見に対する市の考え
<p>市長の挨拶に、観光分野に掲げる第3次基本計画に於いて、「自然とふれあう木更津時間～オーガニックツーリズムの推進」本市の魅力や強みを生かした持続可能な観光施策を推進。とありますが、ここで問題なのは文化という言葉が一つも入っていないことです。木更津は古来より文化都市です。木更津は歴史文化財の宝庫なのです。</p> <p>私は太田山とみなと口でボランティアをしております、その中で、木更津の真の歴史文化を市民の皆さんに認知してもらおうと活動しております。皆さん「ヘーソーだったのか！」と喰いついてきます。木更津みち案内人協会がありますが、これはあくまでも観光案内です。木更津の真の歴史文化をガイドしているわけではありません。例えば、与三郎とお富の見初めの松が鳥居崎公園にあります。ここは昭和7年以降に埋め立てた場所で元は海だったところですので、見初め松があるわけありません。</p> <p>八剱八幡神社の鳥居参道は鳥居が陸に2本、海に2本（宝屋・別館ポスターにこの海の2本が厳然としてあります、昭和2年）あり総延長750mありました。これは神社の狛犬をみればその石造に刻印されています、そうです江戸時代の江戸の文化の流入をもたらした木更津文化の華である木更津船です、南片町の船です。航行の安全を祈願しての狛犬奉納です、そして、鳥居の奉納です。11艘の名が刻まれています、文政8年（1825）。北方町の北がし跡の碑には17艘の船の名が刻まれています、昭和53年（1978）。従って少なくとも木更津船は28艘あったわけです。更に港の金毘羅宮には木更津船頭彰の碑として53艘の名が刻まれています、昭和62年。</p> <p>ことほどさように、木更津の歴史文化は奥が深いのです。与三郎の墓、あれは供養墓で本物ではありません。与三郎は歌舞伎の話です、実在していません。これは大正6（1917）年に仲片町の4人組が肥料屋をつくり、これに与三郎・お富と名前を付け東京に売り出したところ、与三郎歌舞伎の流行りに乗り、メチャクチャ売れに売れてぼろもうけしたんだとさ。そこで彼らは気が引けて光明寺の住職に相談した所、寺の片隅にあった石に戒名を刻み、いい加減に没年を刻みお墓としました。その後与三郎歌舞伎役者（市村羽佐衛門等）お参りに来るようになったのですが、ここ10年誰もお参りに来ないそうです。</p> <p>まちおこしには、そのまちの歴史文化を知ることが不可欠です。大正時代の松本斗吟・河田陽、昭和時代の高崎繁雄、令和時代の筑紫敏夫、これを勉強しないでなんのまちづくりか。まずは、みなと口の真の歴史文化をガイドできる人を育てることです。そのためには高校生に木更津の真の歴史文化を知ってもらうことです。私が出前授業してもいいですよ、パワーポイント・プロジェクターを使って授業します。面白いですよ！なお私が勉強して作ったガイド資料は図書館の蔵書となっております。</p>	<p>市長挨拶文中に「文化」という言葉はございませんが、「本市の魅力や強み」という言葉の中に「歴史・文化」も内包されているものと認識しております。</p> <p>なお、計画書33ページでは、オーガニックツーリズムの定義付けをしている中で、文化を観光資源のひとつとして位置付けていることに加え、具体的な施策については計画書39ページに記載しております。</p> <p>ボランティアの皆様のご協力もいただきながら推進する取り組みもございますので、今後ともご協力いただけますと幸いです。</p>

提出された意見	意見に対する市の考え
<p>私はみなと口のボランティア活動をしております。その中で、市民に真の木更津の歴史文化を知ってもらうべく、年に2回ほど「木更津みなと口、歴史文化財巡り」を実施しています。その際、観光振興課・観光案内所で発行している全ての観光案内パンフレット・資料を皆さんに配布しています。ところがすべての参加者はそれを手にとったことがありません。更に木更津の真の歴史文化財を紹介すると、皆さん「へ～そうだったのか！」と驚き入ります。</p> <p>協働のまちづくり条例をみてください。そこには第8条として、市は市民等の多様な意見をまちづくりに反映させるため、必要な処置を講ずるものとする。さらに市は、職員に対しまちづくりの研修等を行い、人材の育成につとめるものとする。とあります。私は、この条例を木更津のまちづくりの宝だと思っています。さて、これを実施していますか？ほとんどの市民・市職員は「見染の松」の実態を知りません。私が言っている「歴史文化」は「木更津の真の歴史文化」です。まちづくりの基本は古来の歴史学者が言っているように「その歴史文化を学ぶことから始まります」と。</p> <p>平成14年、産業創生課がシャッター街の町おこしとして始めたときは、高崎繁雄先生を呼んで木更津の歴史を勉強していましたが、途中で頓挫しました、まことに残念です。</p> <p>木更津の観光振興は絶対に「歴史文化都市木更津」の再興あるのみです。そのためには若い世代にこれを後継せねばなりません。高校生等に出前授業で「真の木更津の歴史文化」を実施するのも一手です。私がぜひやりたいものです。観光行政はまず市民の中から行うべきです。熊谷県知事が言っているように「観光資源の掘り起こし、磨き上げ」が重要な課題になってきます。これを実施しませんか。計画の前に市民の声を聞いてください。言葉ならいくらでもできます。実施するか否かです。計画書の中には学校教育の中で木更津の真の歴史文化を伝える、若い後継者を育てるくだりは全くありません。具体的施策として例えば博物館の件がありますが、博物館の入場者数は1万人強ですが、なぜこんなに少ないのかわかりますか、横須賀猿島戦跡公園は25万人ですよ、太田山は木更津の顔とも呼ばれています、駅東口はもともと太田山口です、なぜ中心市街地活性化計画区域から太田山を外したのですか、先日この計画は総理大臣の認定を受けました。クルーズ船寄港して何をやるのですか。もっと木更津の真の歴史文化を大事にしましょうよ。このままでは認定が恥ずかしいですよ。</p>	<p>ご指摘のとおり、観光施策は、まず市民の皆様こそ木更津の魅力を再発見していただくことが重要であり、持続可能な観光・まちづくりの礎になると認識しておりますので、今後も市民の方の声に耳を傾け、取り組みを進めてまいります。</p>
<p>なぜ、「オーガニックなまちづくり」を基軸に、木更津市の魅力・価値を伝え、木更津駅周辺を中心市街地への回遊を促進するための施策の検討、連携体制の構築となるのか。これは、二つに分けるべきではないか。</p> <p>①「オーガニックなまちづくり」を基軸に、木更津市の魅力・価値を伝える。</p> <p>②木更津駅周辺を中心市街地への回遊を促進するための施策の検討、連携体制の構築</p> <p>なぜなら、①は木更津市全体に関係するものであり、②はシャッター街の駅周辺の活性化をいかに作り出すかであるため。</p>	<p>ご意見のとおり意図で記述をしているところですが、ご提案の記述は整理されておりますので、下記の通り修正いたします。</p> <p>「オーガニックなまちづくり」を基軸に、以下の施策を行う。</p> <p>☞本市が有する地域資源の価値を再評価し、独自の魅力や特性を効果的に発信</p> <p>☞木更津駅周辺を中心市街地への回遊を促進するための施策の検討、連携体制の構築</p>

提出された意見	意見に対する市の考え
<p>第2次観光振興計画に記載のあった「持続可能な地域資源の活用」のうち、「観光資源の発掘及び磨き上げ」「自然との共生による関係人口等の拡大」「木更津ブランディングの推進」について、できたのか、できなかったのか場合は課題を書き、継続不可の意思を示すべき。掲げた方針のたなざらしにならないように。</p>	<p>第2次観光振興計画におけるご指摘の施策については、木更津市観光協会やみなとまち推進協議会が主体となり取り組んだところ。なお、第2次観光振興計画の各施策については、附属機関において振り返りを行ったうえ、第3次観光振興計画に継承しております。また、第3次観光振興計画では、各施策の具体的な取り組みに係る進行管理を行うための「施策推進シート」を作成し、附属機関にて施策推進シートの振り返りを行い、後年に反映をさせることでPDCAを実施いたします。</p>
<p>きさらづDMOは、観光地域づくり法人として登録しており、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光データの収集・分析 2. 観光地域づくりの戦略の立案 3. 関係者との合意形成 4. PDCAサイクルの実施 等 <p>を行う。そういった意味で今回の計画には、木更津市の姿勢が明確となり、充実させることは、同法人がすべきことであり、木更津市としては、同法人が行ったPDCAを共有し、合意形成を図るといったスタンスになると解釈したが、この考えで良いかお尋ねする。</p>	<p>お考えのとおりです。</p>
<p>第2次観光振興計画に記載のあった「おもてなし体制の充実」のうち、「観光ボランティア等の積極登用」について、どの程度取り組んだのかは、やはり明記すべきではないか。今後の方向性として課題があるのか、成果があったのか。</p>	<p>観光ボランティア団体であります「木更津みち案内人協会」では、大型観光バスツアー受入に伴う観光案内や、市内小学校の校外学習の対応のほか、観光庁の補助金を活用した観光ツアーにおける連携を行いました。課題として、ボランティアの会員減少及び高齢化がありますが、会員募集に向けた案内人体験ツアー等を実施し、新規会員募集を継続いたします。</p>
<p>第2次観光振興計画に記載のあった「おもてなし体制の充実」のうち、「観光案内版等の環境整備」について、観光案内版の多言語化はできたのか。デジタルサイネージは、車で回遊する人にとって、意味がない。よって、交通標識ぐらい大きな観光案内板を市内に設置すべきである。また、歩いて回遊させたい道には、道しるべ的な観光案内を提案したい。それは今後、検討される宿泊税を活用することで、地域にも観光客にもメリットとなる。</p>	<p>令和5年度に木更津駅みなと口、巖根駅西口、太田山公園内の観光案内板の改修に伴い、多言語化観光情報サイトの二次元コードを案内板に掲載したことにより、多言語での観光案内を実現しました。また、いただきましたご意見は、観光案内版の新規設置や更新の際に、参考とさせていただきます。</p>
<p>第2次観光振興計画に記載のあった「おもてなし体制の充実」のうち、「観光トイレ及び駐車場の情報発信と整備」について、観光トイレの設置と同時に、道路には観光トイレの案内板を設置すべき。また、富士見通りを歩かせたいなら、街並みに合わせ、観光トイレを設置し、それも写メを撮りたくなるような。それでSNSに拡散され、また人が来る。ある自治体では城下町風に再開発されたが、トイレは「かわや」と呼ばれていたような。</p>	<p>市民や旅行者からの自主的な発信は、市としても狙いのひとつでありますので、新規設置や更新の際には、参考とさせていただきます。</p>

提出された意見	意見に対する市の考え
<p>第2次観光振興計画に記載のあった「おもてなし体制の充実」のうち、「訪日外国人及び海外への情報発信」についてはどうでしょう。情報発信する前に魅力をしっかり担保すべきでは。どんな振り返りをしたのか、気になっているところです。</p>	<p>多言語観光情報サイトを活用し、国内外へ情報発信を行いました。 今後は、SNS等の活用により効果的な情報発信方法を検討する必要があると分析しています。</p>
<p>P.37 グリーンツーリズムの推進【農林水産課、観光振興課】 里山・里海などの地域資源を活かした農業や漁業体験を通じて、都市部の人々と交流を図ることで、文化や自然環境など地域の魅力発信につなげるとあるが、農業者の後継者不足で、耕作放棄地が増えていく昨今、農業体験で、年間通じて、米づくり体験をする企画ができればいいと思う。畑は市民農園という形で取り組みやすいが、米づくりは市民が行うことは困難な状況から、米作り体験をすることで、将来的な農業従事者をふやすなど、鴨川市が取り組んでいる棚田オーナー制度が木更津市で応用できるか、法律など詳しくないので、わからないが、体験者がのちのちに、農業の担い手になるきっかけづくりになればと考える。大規模のしゅうやくしにくい農業には不向きな田で、耕作放棄地にならないうちに、体験したい人と農業を近い将来担い手を探したい人がマッチングできるよう、木更津市が取り組むというのはどうか。観光のようで観光ではないが、これは、市外の人を呼ぶだけでなく、市内在住の市民も参加しやすいことから、自分たちのまちの良さを体験できる。学校給食米をつくっている木更津市ならではの農業体験として、学校給食米をつくっている人の話をきくのも、体験の中にオプションであってもいいと思う。</p>	<p>ご意見につきましては、農業振興の側面が強いことから、貴重なご意見として関係課へ伝達いたします。</p>
<p>P.36 オーガニックツーリズムに造詣の深いガイドの育成【観光振興課】 「里山や里海での体験をより深く楽しみ、学ぶためのガイド人材を募集・育成することで、観光の質を高めます。」とあるが、具体的にどのような計画なのか。 2024年度の実績として、ガイド募集に係るセミナー開催とあるが、これはきさらづDMOが行ったセミナーであるという。 地域の環境庁のHPに「官民の関係者との効果的な役割分担をした上で、例えば、着地型旅行商品の造成・販売やランドオペレーター業務を実施する事業者等が地域内で不在の場合など地域の実情に応じて、観光地域づくり法人が観光地域づくりの一主体として個別事業を積極的に実施・・・」とある。 よって、令和7年度のガイドの育成は、市が行うのか、DMOが行うのか、明記されていない。市は何を行うのか、DMOは何を行うのか。役割分担を明記してほしい。この項目に限らず、この木更津市観光振興計画は、市が行う計画であり、連携している部分はそれがわかるようにと考える。そうでなければ、PDCAもしにくいのではないか。</p>	<p>ガイドの育成は基本的にDMOが行う事業と想定しております。 第3次観光振興計画では、各施策の具体的な取り組みに係る進行管理を行うための「施策推進シート」を作成し、市とDMOの役割分担については本シートに明記をいたします。 また、附属機関にて施策推進シートの振り返りを行い、後年に反映をさせることでPDCAを実施いたします。</p>

提出された意見	意見に対する市の考え
<p>P. 40 神社・仏閣の観光案内【観光振興課】</p> <p>「木更津みち案内人協会が作成した市内の名所を巡るモデルコースの紹介や、本市の歴史や文化、神社仏閣を木更津みち案内人が解説付きで観光案内することで、観光誘客につなげます。」とあるが、市内の名所や神社仏閣には、統一された観光案内掲示板のようなものがあるのか。通し番号を付けておくのも面白いのではないか。宿泊税導入の際の還元、作成して観光に寄与してはと考える。</p>	<p>現在、観光案内看板は、木更津駅西口ロータリーや太田山等に設置しておりますが、統一はされておられません。</p> <p>また、通し番号についても、番号の途中で追加できないことや、撤去となり欠番が発生することもありますので、慎重に検討してまいります。</p>
<p>P. 43 富士見通り等の活用【地域政策室、観光振興課】</p> <p>「再整備される富士見通りの活用や、木更津飛行場周辺まちづくり基本構想に掲げる4つの重点地区（江川総合運動場周辺・吾妻公園・木更津駅周辺・旧庁舎跡地）を基軸とした回遊性向上の仕掛けづくりを、民間事業者等と連携しながら検討していきます。」</p> <p>回遊性の規模、方法はどのように考えているのか。駐車場が少ないうえに、富士見通りは、イベントのときだけ人が回遊すればいいのか、歩いて楽しめる店が立ち並んでこそと思う。</p>	<p>回遊性の規模については、「木更津飛行場周辺まちづくり実施計画（他3地区）」に基づき、富士見通りを含めた木更津駅周辺や吾妻公園、旧庁舎跡地等の内港周辺地区はもとより、金田地区や江川総合運動場周辺等を加えた広域的な範囲も対象として考えています。また移動手段については、地区間の移動距離に応じ、徒歩や自転車、電車・バス等の公共交通機関、自動車等の利用を想定しています。</p> <p>富士見通りを含めた木更津駅周辺は、「木更津市中心市街地活性化基本計画（第2期）」に基づき、駅前新庁舎や市民交流プラザ、吾妻公園文化芸術施設等の整備などまちなか再生の基盤づくりとなる公共投資を進め、鳥居崎海浜公園再整備等との相乗効果を生み出し、市民や観光客等の中心市街地への来訪機会を日常的に高めるとともに、地域資源を有効活用しながら、面的な回遊性の向上を図っていくこととしています。</p> <p>また、公共公益施設の充実や住環境の整備を推進することで、富士見通りをはじめ中心市街地において、商業機能など民間投資の誘発につなげたいと考えています。</p>
<p>P. 47 自転車活用推進計画の策定と推進【土木課、関係課】</p> <p>自転車活用推進計画は、何課が推進するのか。</p>	<p>自転車活用推進計画については、木更津市自転車活用検討委員会を組織し、推進してまいります。</p> <p>組織の委員は、危機管理課、地域政策室、地域共生推進課、健康推進課、スポーツ振興課、環境政策課、観光振興課、都市政策課、管理用地課、土木課、学校教育課の各課長となります。</p>
<p>P. 49 情報発信の強化【産業振興課、観光振興課、都市政策課】</p> <p>「交通利便性の高いインターチェンジ周辺地区の土地を活用し、人の流れを生み出す賑わいのある交流拠点の施設整備を民間事業者等と連携し推進していくとともに、既存施設には情報発信コーナーの設置などを働きかけていくことで、情報発信機能を強化していきます。」とあるが、交通利便性の高いインターチェンジ周辺地区の土地を活用とは、どこのことか。</p>	<p>木更津市企業誘致方針に盛り込んでいる木更津北・南・東インターチェンジ、木更津金田インターチェンジを指しております。</p>

提出された意見	意見に対する市の考え
<p>P.50特産品の情報発信【農林水産課】 アグリパーク木更津での情報発信回数を計画にしているが、これは、木更津市のHPだと推察する。ふるさと納税の返礼品のアピールのほうが良さげと考える。</p>	<p>ふるさと応援寄附金返礼品の発信については、関係課と相談の上、検討してまいります。</p>